

世界遺産へ向けて

～初冬の白峰・加賀馬場を訪ねて～

11月30日に石川県白山市白峰で開催された白山文化フォーラムに合わせて、フォーラムの聴講と、白山ろく民俗資料館、加賀馬場（石川県側の白山登拝口）の白山比咩神社を巡るバスツアーを実施しました。

フォーラムでは、白峰地区で取り組む「伝統的建造物群地区保存制度」について学びました。また、白山ろく民俗資料館では、山口一男館長に白山麓の生活や、白峰地区と勝山の繋がりについてお聞きすることができました。

さらに、白山比咩神社では宝物館を拝見させていただきました。あいにくの空模様でしたが、参加された29名のみなさまは、たいへん満足された様子でした。



ほっといっぶく 平泉寺こぼれ話

～第3話～

平泉寺と一乗谷(その2)

今回は、両遺跡の栄えた時期についてお話しします。

まず平泉寺は、創建が養老元年(717)とされており、その焼失は天正2年(1574)とされていることから、およそ**850年間**存続したといえます。一方、一乗谷朝倉氏遺跡は、文明3年(1471)に初代朝倉孝景が越前一国を支配して以後、織田信長に滅ぼされる天正元年(1573)までの約**100年間**、5代にわたって繁栄を極めました。

朝倉氏が越前国を支配すると、まもなく平泉寺をその傘下に入れました。そして、一乗谷滅亡の折には、当主朝倉義景が平泉寺の力を頼って大野まで落ち延びてくるのです。

このように一乗谷と平泉寺は長く密接な関係にありましたが、一乗谷朝倉氏遺跡の存続期間は、平泉寺850年の歴史からみると最後の100年に重なる比較的短いものといえます。

次号へつづく・・・

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 3 (2008年12月号)



【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成20年12月25日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話：0779-88-8113(直通)

メール：shiseki@city.katsuyama.fuku.lip

今号の内容

復元！門と塀

ってどんなもん？へえ～

連載

- 世界遺産へ向けて
- 平泉寺こぼれ話～第3話～
- 発掘現場通信

石畳道に面した坊院(僧侶の屋敷)跡を白山神社側の上空から撮った写真です。今回のかわら版は写真左側の杉林のなかで計画されている坊院の門と塀の復元について特集しました。

発掘現場通信 ～調査のポイント～

西蓮院西側の水路調査



合の寺跡の後ろに大きな石が、なにかありそうな予感…

水路工事の前に発掘調査を進めていくと(写真①)、中世の水路が残っていることがわかりました(写真②)。そこでこの水路を修理し、現在の水路としても使うことにしました(写真③)。

今回の発掘現場は、先月号の表紙を飾った平泉寺坊院「西蓮院」から100mほど西へ下った所です。ここには室町50年代につくられた水路がありましたが、



平らに削った…！400年ほど前の水路に水路です。

水の流れが悪くなっており、新しく水路をつくることになりました。

調査で出てきた400年ほど前の水路を修理して完成！



門と塀復元予定地

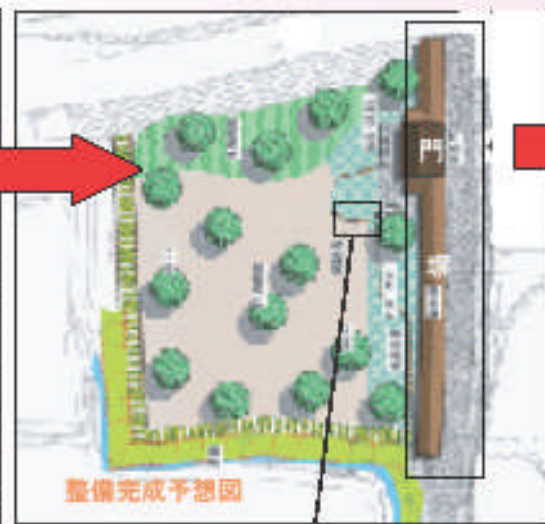
平成20・21年度調査地
(21～24年度整備予定)

平成18年度調査地
(23年度整備予定)

平成16年度調査地
(21年度整備予定)

平成17年度調査地
(24年度以降整備予定)

復元！門と塀ってどんなもん？へえ～



門と塀復元予定地の発掘調査

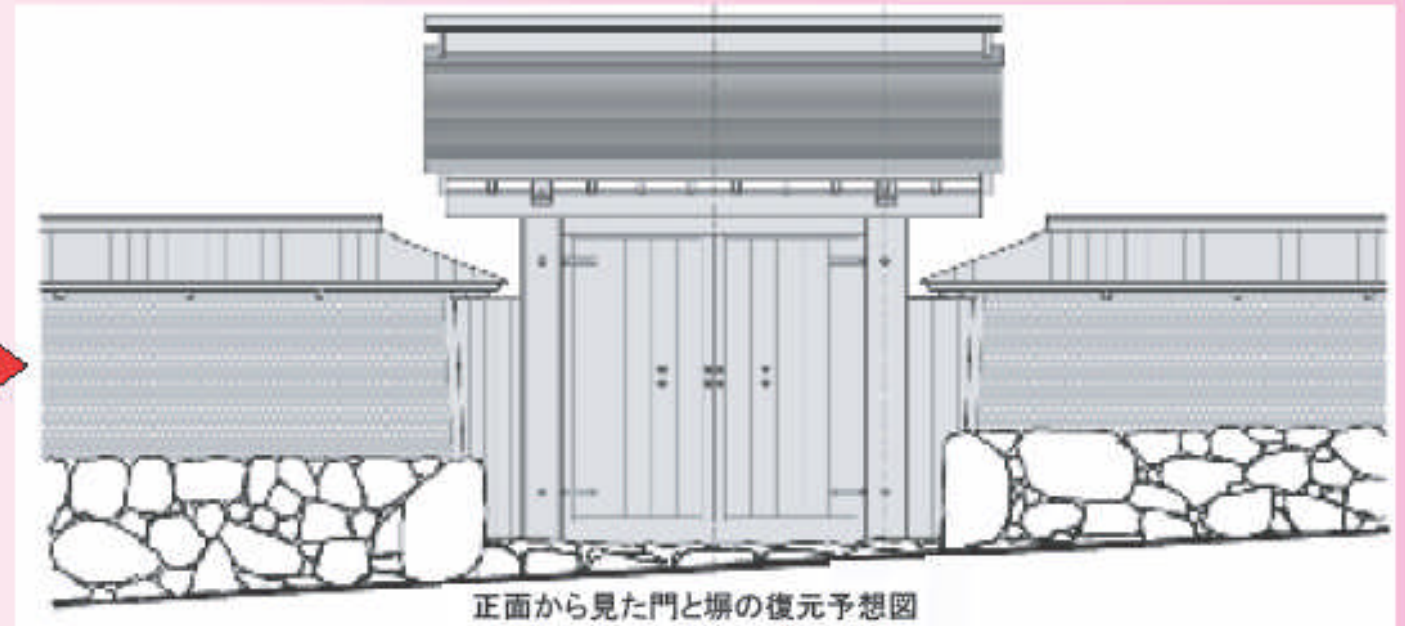


…石をきれいにしして石畳道を出しています…

9月から12月にかけて行った発掘調査によって、坊院のなかから約430年前の戦国時代頃の石畳道がみつかりました。

前号で紹介した西蓮院や平成4年に発掘された北谷(白山神社の北側)の地蔵院と同じように、門をくぐると奥の建物まで石畳道が伸びていたと考えられます。

平泉寺のようにほとんど全ての道が石畳道というところは、全国でもほかに例がありません。



●どのような事業ですか？

勝山市では、平成20年度から5年間をかけて平泉寺の史跡等総合整備事業を行います。この事業の大きな目玉のひとつが石畳道に面した南谷坊院跡の門と塀の復元です。

●なぜ復元するのですか？

これまでは発掘地を訪れてもどのような建物が建っていたのかよくわかりませんでした。そこで、建物を復元することによって、当時の僧侶の住居を身近に感じていただきたいからです。

●どこに復元するのですか？

平泉寺では「ぼうじ(坊中)」と呼ばれている南谷の坊院跡です。白山神社から宗像神社を経て南に進むと、平成3年に発掘された石畳道が130mにわたって続きます。石畳道のつきあたりにある坊院跡が門と塀の復元予定地です。

●いつ復元するのですか？

平成20・21年度に学術的な裏づけを得るために発掘調査を行います。その結果をもとにして、平成21年度に門と塀の設計書をつくります。平成22年度に文化庁の審査を経て、平成23年度に門、平成24年度に塀の復元工事を行います。

●どのような門と塀を復元するのですか？

「門」は扉を付ける柱2本、裏の控え柱2本の計4本を立てて、その上に屋根をのせます。このような門は、「薬医門」と呼ばれています。



「塀」は木枠ではさんだ中に泥を入れて表面を土で塗り固める「土塀」と考えられています。

左の写真は、一乗谷朝倉氏遺跡で復元整備された土塀です。

